

「ミエリン仮説」の登場が、発症メカニズムの扉を開ける

「アミロイドβオリゴマー仮説」から「ミエリン仮説」へ

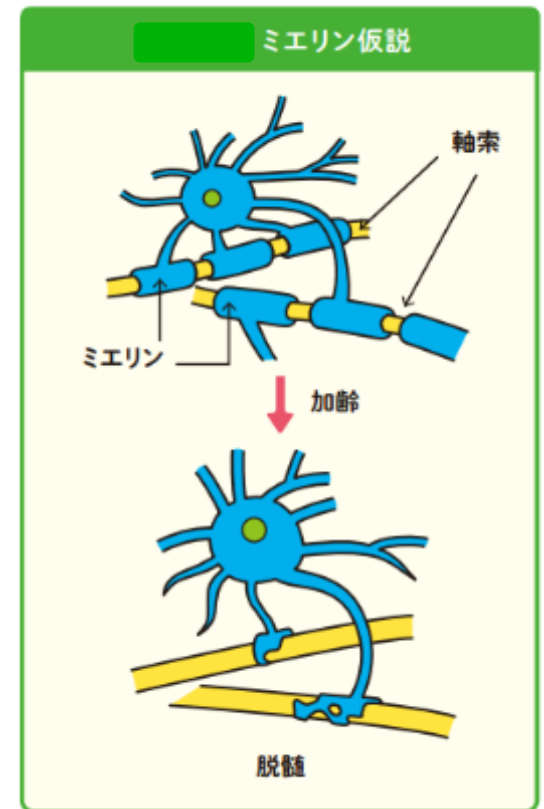
イメージング（画像）技術の一つであるMRI拡散テンソル画像（DTI）によって、アルツハイマー型認知症の脳では白質の異常やミエリンが著しく減少している事が認められた。



今まではアミロイドβの蓄積の結果と考えられていたものが、それよりも前に生じていることが判明した



そうした報告などを背景に、阿相 皓晃先生が新たな視点から、アルツハイマー型認知症の発症機序の研究を進めてきたのが「**ミエリン仮説**」です。

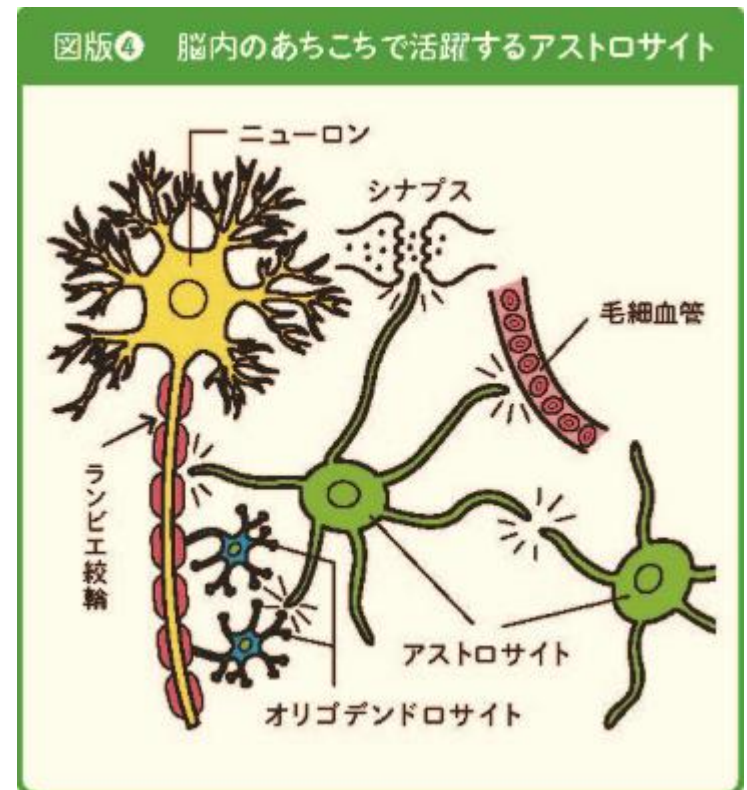


アストロサイトの働き

アストロサイトは、膨大な数でニューロンの周囲を働き周り、変幻自在に姿や大きさを変えながら、きわめて複雑な仕事をこなしています。

その働きは以下の5点にまとめられる

- 中枢神経系内での免疫細胞・貧食細胞としての働き
- 血液脳関門での働き
- ニューロンやオリゴデンドロサイトへの栄養補給
- シナプス機能を正常化する働き
- グリア細胞同士がつながっての情報共有



FAST Stage2・3

物の置き忘れ
言葉の出にくさ

熟練を要する仕事ができにくくなったことが
周囲から指摘される

知らないところに行く
ことが困難、重要な約束を忘れる

FAST Stage4

複雑な仕事の遂行が困難となる

例えば
食事の準備
家計の管理
買物の勘定
等々

FAST Stage5

介助なしで適切な衣服を選ぶことができない

入浴を嫌がる
運転事故
買物が1人でできない

大声、感情障害、睡眠障害により家庭で生活が困難になる

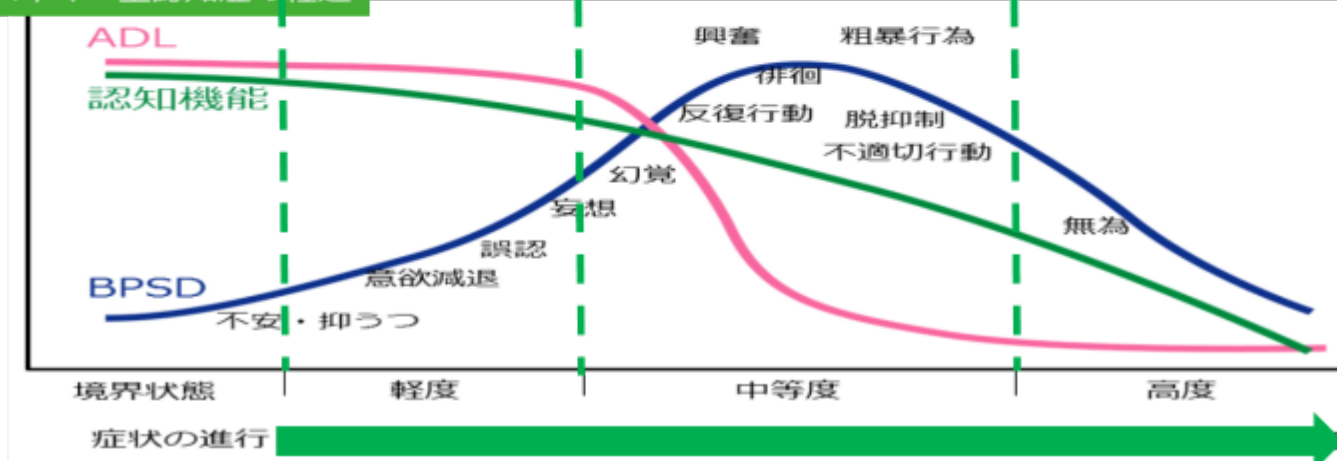
FAST Stage6・7

1人で衣服を正しい順に着られない

入浴介助が常時必要
尿失禁、便失禁

発語は数語
歩行能力喪失
座位保持困難
笑うことがない
混迷昏睡

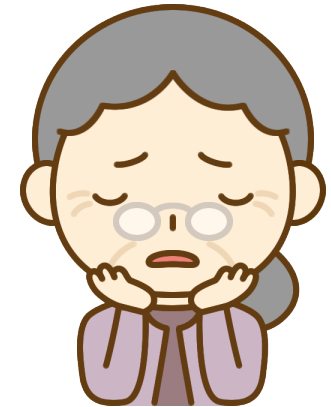
アルツハイマー型認知症の経過



Doctor's Report 「Mガードの臨床効果と期待」

ケース① 86歳・女性

ご主人の入院をきっかけに、不安が非常に強くなっていた。アリセプトを服用しても症状に変化が無いという訴えで、抗不安薬を投与すると次第に落ち着いてくる。



抗不安薬服用から9ヶ月後にMガードを開始。
2ヶ月ほど経過すると、息子さんから

- 意欲が出てきて、今までやらなかった料理をするようになった
- 気持ちの切り替えができるようになって、不安がることが無くなってきた
- 悲観的なことをいわなくなり、表情が明るくなった
- 外出するとき、身の周りを確認する時間が非常に短くなった
- つけていなかった日記をつけるようになった

と報告があった。

Doctor's Report 「Mガードの臨床効果と期待」

ケース② 81歳・女性

やる気がまったく失われて不安感が強く、抗不安薬も服用。



Mガード開始から2ヶ月ほど経過すると

- やる気が出て、体調も良くなる
- 会話が増え、イライラしなくなる

と報告があった。

抗不安薬についても「この薬（抗不安薬）を止めてもいいか」と本人から申し出があり、服用を中止する。

アルツハイマー型認知症と診断される前はトールペイント（塗り絵）をやっているも、症状の悪化でまったくやらなくなっていたが再開。

トールペイントを持参してもらったところ、高齢者とは思えない見事な配色バランスと高い完成度に目を疑った。



Doctor's Report 「Mガードの臨床効果と期待」

ケース③ 74歳・男性

家族からの訴え

- 味覚が落ちてきた
- 好き嫌いが激しくなってきた
- お酒を飲まなくなった
- 衣服の着脱ができなくなった
- 同じ質問を何度も繰り返す
- 約束を忘れる
- 怒りやすくなる etc.



Mガードを服用開始すると、いきなり本人から「失禁しなくなった」と報告を受ける。

2ヶ月ほど経過すると、「今までは数日前のことはみな忘れていたが、数日前の事を記憶しているようになった」

と報告があった。

Doctor's Report 「Mガードの臨床効果と期待」

ケース④ 79歳・男性

農家の方で、MRIでかなり脳萎縮が認められた。

具体的には

- ・ 自分で農業の段取りがほとんどできなくなった
- ・ 奥さんから指示されたことしかやらない
- ・ 同じ質問を繰り返す
- ・ 日常動作にも不自由する etc.



こうした症状を呈していた。



Mガードを服用開始すると、2ヶ月ほどでやる気が出てきて、会話もよくおこなうようになる。

自分から進んで畑にでるようになり、5ヶ月経過する頃になると後片付けもするようになる。

奥さんからは「ときどき物忘れすることはあっても、全体的には悪化していない。

と報告があった。

ケース⑤ 83歳・男性

日本料理店を経営していたが、閉店後、妻と生活するが、料理をしなくなり、味も変わり、会話も減り、軽～中等度の認知症と診断されドネペジル、サアミオンを飲んでいた。



一年前より、意欲が無くなり、表情も乏しくなり、会話もせず、寝ている事が多くなり、料理はとても下手になった。

Mガードをすすめられ、2ヶ月後の状況

- 表情が良くなる
- 積極性が出て、自分で食材を買いに行く
- 味付けが元にもどった
- 記憶力も良くなった
- 眼つきがとても良くなった
- 近所の人から、どうしてこんなに良くなったの？と聞かれる
- ベランダのペンキ塗りもやったと報告あり

